



十中だより

11月号

令和5年11月 6日
文京区立第十中学校
校長 南 英昭

～発表会とは～

10月28日(土)に学習発表会を本校体育館で実施しました。今年は、久しぶりに来賓の方を迎え、保護者の方にもほとんど制限のない形でご覧いただくことができました。生徒たちの発表はいかがだったでしょうか。生徒たちの短期間での成長に感動しました。改めて、発表会は観てもらう方のためだけでなく、**実は発表する生徒たちの成長のためにあるもの**だということを強く感じました。発表する機会を目標に自分たちで工夫や練習し、質を高めようと努めていました。今回、その変化や成長の度合いが大きく、それが観ている人の心を大きく動かしたのかもしれない。特に3年生全員の学年合唱では、声量や音程といった技術面だけでなく、心から曲を理解し表現することができていました。今年のスローガン「**つくりあげろ！皆の個性**」は十分に達成できていたのではないのでしょうか。



今月号は、学習発表会を中心に紹介いたします。

合唱コンクール

今年は、ステージ上でマスクを外し、思いっきり歌うことができ、自分たちでつくりあげた合唱を披露することができました。それぞれの学級には特徴があり、それぞれの色が出ていました。あふれる感情を体全体で表現しようとしている姿が印象的で、聴いている側も心を打たれました。



弁論

今年のテーマは『言葉』または『そうぞう』で、一人ずつ各学級で自分の考えや思いをまとめ発表しました。当日は、各学級から選ばれた代表者1名がステージ上で主張を披露しました。どの代表者も堂々とわかりやすく、きちんと根拠を示し述べることができていました。また、視線や間の取り方など聞き手を意識した工夫も多く見られました。



生徒会本部

生徒会活動の中のユニセフの募金活動について、世界にも目を向けた示唆に富んだ内容を伝統の生徒会劇で分かりやすく表現してくれました。当日、急に募金をしていただいた保護者の方も多数ありご協力いただきありがとうございました。



英語部

部員一人一人が興味をもっていることを英語でプレゼンテーションしてくれました。個人や対話による発表は、英語の発音が聞き取りやすく、和訳も提示され内容も分かりやすいものでした。



吹奏楽部

常に新たな曲をマスターし、聴くものを楽しませてくれます。今回は安定した演奏だけでなく、曲紹介を漫才で行うなど工夫を凝らした演出が随所に見られました。衣装だけでなく、踊りも加えエンターテインメント性が増し、会場と一体となった演奏がみられました。



美術部

独自の表現力をもつクレイアニメ（粘土で作られたキャラクターをコマ撮りの技術を利用して制作されたアニメ）での発表でした。前回の復習から始まり、部内で受け継がれた技術を駆使した力作でした。驚きあり、笑いあり、会場が和やかな雰囲気につつまれました。



地域行事での活躍

大原地区の地域イベント「ハロウィン2023スタンプラリー×オーハランド」に本校有志75名が参加しました。今年で4回目の開催となるハロウィンイベントは毎年およそ1000名の仮装した地域の子どもが参加する大きなイベントです。十中生は、運営スタッフとしての参加となります。今年は、スタンプラリーのスポットではなく、十中体育館と林町小体育館に分かれてゲームや

お化け屋敷で来場した子どもたちを楽しませていました。十中生の丁寧で優しい対応を見て高校生と勘違いしている地域の方もいました。地域の一員として地域行事を盛り上げた参加者の皆さんのおかげで、地域の子どもたちの思い出に残る特別な日になったことと思います。

